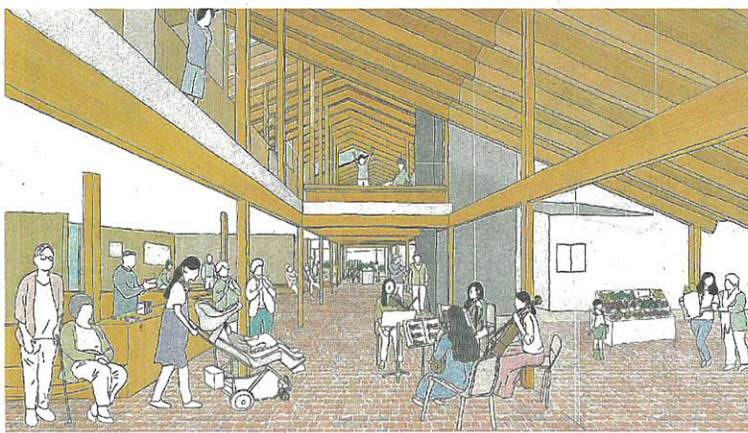


# 福祉施設に災害ボラ拠点

## 金沢・金石で映寿会グループ

### 日本財団が助成

#### 映寿会グループ(金沢市)



の社会福祉法人中央福祉会は、同市金石地区で認知症の早期予防やケア、地域住民の交流拠点となる福祉施設を整備する。能登半島地震、奥能登豪雨を受け、災害ボランティアセンターを併設する方針で、来年春の完成を予定する。日本財団が助成し、「地域に向く福祉施設」のモ

映寿会グループが整備する「みらいの家」のイメージ

デルを目指すとともに、能登の復興支援につなげる。

映寿会グループは金沢市

鞍月地区で医療施設や介護施設を展開しており、金石の福祉施設「みらいの家」

はサテライト拠点となる。

建物は木造2階建てで延べ床面積は488平方メートル。

建築家で東大大学院教授の千葉学氏が設計し、切妻屋根で落ち着いた雰囲気とする計画で「自分の家の延長としての安心感とともに、出合いの場のワクワク感を持たせる」(千葉氏)という。

リハビリを行う地域密着型通所介護施設のほか、訪問介護事業所や地域包括支援センターを設置する。宿泊室なども設け、災害ボランティア参加者の拠点とする。今後は金沢だけでなく、同市粟崎、大野地区でも事業展開を検討する。

業展開を検討する。



### 「届ける福祉」を

#### 日本財団は「みらいの福祉施設建築プロジェクト」

の助成先として、中央福祉会を選んだ。助成額は約3億円。4日は東京・赤坂の同財団ビルで表彰式が行われ、北元喜洋理事長(写真左)は「高齢者の増加を受け、今後は『届ける福祉』として地域に向き、きめ細かなケアを行うことが重要になる。地域の人も気軽に来られる場になりたい」と話した。